



2025 年度
第 30 号

体育市民連帯 ニュースレター

いじめ被害の
悲惨さ…
王国の
野球少年



相撲「シャベル暴行」
バスケ「殴り合い」
…暴力に傷つく
学校体育



慶尚北道教育庁
学校運動部暴力再発防止
「ワンストライクアウト」
導入



龍仁サッカー協会幹部
公務員暴行…
イ・サンイル市長
断固たる措置を取るべき



枯渇危機の
京畿道
文化体育
関連基金



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



*

声明書

学生選手をスコップでたたきつけた尚州市中学校相撲部監督を糾弾する！

教育部と文化体育観光部は、暴力を放置して黙認した学校と教育庁に責任を問い、
安全な学校運動部の環境とシステムを構築せよ。

また、学校運動部の指導者によるスポーツ人権侵害事件が発生した。今年6月、尚州市の某中学校シルム部監督が選手A君の頭をシャベルで殴り、皮膚が裂ける傷害を負い、本事件が2ヶ月間隠蔽されたという事実が今になって知らされたのだ。特に、この事件は、その後も持続的な暴力に苦しんできたA君が、自分の首を切ろうとしたことを父親が劇的に発見し、救助したことで明らかになった。

学校側は「暴行事実と病院治療の有無を全く知らなかった」と釈明し、保護者が教育庁傘下のWeeセンターに被害事実を知らせたが、助けを受けることはできなかった。教育庁でも本事案を軽微な事案として扱い、罰する措置を取らなかったと知られた。

報道によれば、加害指導者の知人は「才能はあったが訓練態度に問題があった」として被害学生選手に対して言及した。これは人権侵害の被害者に責任を転嫁する回避であるだけでなく、2次加害だ。学校運動部の指導者が学生選手たちの態度を問題視し、暴力を使うことは、どんなことでも理解できない問題だ。むしろ、指導者の力量がないことを露にしていると言える。特に、学校や教育庁が学校運動部の暴力事件を軽微なものと認識し、事態を放置、黙認する慣例が依然として残っていることは本当に衝撃的だ。

3月、大会期間中に宿舎で学生選手に暴力および性暴力を行使したテコンドーコーチも被害選手の態度を問題視し、昨年発生したソンサッカーアカデミーの児童虐待事件でも被害児童の態度を問題視した。また、3月に発生したテコンドーコーチの学生選手暴力事件でも学校の遅い対応があった。今回の事件でも加害指導者が被害学生選手の保護者に偽りで事件を偽装し、学校と教育庁が放置、黙認する2ヶ月間、被害学生選手は暴力の苦痛に苦しみ、自分の命を絶とうとする試みをするまでに至ったのだ。2020年、故チェ・スクヒョン選手の死亡事件が体育界に大きな衝撃と波紋をもたらしたが、反省なしに変わらなかった体育界は被害者を持続的に量産している。

暴力など人権侵害の危険から安全でない学校運動部は生徒と保護者、学校皆に忌避の対象にならざるをえない。特に、暴力のような人権侵害事件に対する学校と教育庁の対応は、その危険をさらに増幅させる。学生選手を保護しなければならないシステムが信頼できないのだ。したがって、今回の尚州市の某中学校シルム部指導者の暴力事件に対しては、加害者の処罰だけでなく、本事件を放置して黙認した学校と教育庁まで必ず責任を負わなければならない。

スポーツの才能と夢を持つ学生選手たちが、その夢を実現する過程で、自ら死ぬことがあってはならない。安全で信頼できるシステムで安全な学校運動部が存在し、多様な学生選手たちが養成される。学生

選手たちが安全に教育を受けられる環境とシステム構築に対する責任が国家にある。文化体育観光部と教育部が積極的に、真正性をもって本事案を扱わなければならない理由だ。

2025 年 8 月 12 日

社団法人スポーツ人権研究所、文化連帯、体育市民連帯

01 ハンギョレ 21 2025. 8. 18

いじめ被害の悲惨さ・・・王国の野球少年



暴力は被害者を何段階にもわたって悲惨なものにする。物理的な暴力やいじめ、いじめを受ける時、被害者はまず肉体的な痛みと精神的な孤立によって悲惨になる。その次には加害者が自分を同等な人間として見ていないという事実を知ることになり、さらに惨めになる。次の段階は自責だ。被害者は「加害者が私になぜこのように強烈な敵意を見せるのか」と考え、自身の容貌や身なり、言葉遣いと行動などから原因を探す。自分が殴られたりいじめられたりする理由を知りたいからだ。

加害者ではなく被害者が、甚だしくは自身から暴力の原因を探すことも悲惨なことだが、最悪はまだ残っている。被害者は結局、加害者が自分に何の関心もなく、ただそれでも良いので暴力を行使するという事実、そして加害者がただそれでも良い背景に自分が直ちにどうすることもできない序列と階級構造が存在するという事実を知ることになる。この時、悲惨さは無力感とともに極に達する。

彼は「子供たちの間では王様」と呼ばれた。「王」は忠清南道天安北一高校野球チームの「エース」だ。北一高で最も優れた実力を持つ投手ということだ。さらに、同年代の韓国最高投手に選ばれたりもする。被害者たちの供述などを総合すると、この全国区エースの暴力は服従を求めることから始まった。平気でお使いを頼んだ。その次には羞恥心を抱かせた。シャワーを浴びる裸を撮影したのだ。被害者が苦勞してその映像を削除すると、今回は悪口が始まった。自分に従う群れを動員して、集団いじめをさせた。被害者は一人ではなかった。被害者を助けるためにエースの暴力を告発した後輩2人が、また別の悪口といじめの被害者になった。追加被害者のうち1人は野球をやめて学校を移し、もう1人は精神科の治療を受けた。

エースの暴力加害が可能だった背景には、スポーツに蔓延した実力至上主義がある。特に球技種目ではエースのように実力が優れた選手のチーム内の地位を根拠に、自然に加害者がそのままでいい、被害者は直ちにどうすることもできない序列と階級構造が形成される。全国大会で良い成績を出し、プロチームの指名を受けて学校名を知らせる選手は少数に過ぎない。(野球は1年に110人がプロチームにドラフトされる。)このような構造で「いわゆる『上手な』選手の得をする学校管理者も、指導者も、選手も、そして保護者まで同調してあえて『触れられない存在』を作り出す」(金賢洙体育市民連帯執行委員長)

学校と教育機関は野球チームの選手の実力以外には何の関心もない。特に、北一高校で野球部員は担任教師と会うことも、学期初めの相談もしない。勉強や学校生活は重要ではなく、ただ野球だけすればいいと考えているのだ。このような環境で監督とコーチらはエースの暴力を「ささいな口論」と考え、野球部長は「訓戒して諭す程度で終えられる事案」と判断してしまった。

「王」は天安北一高校のエースだけだろうか。 韓国の学園スポーツはもちろん、社会全体が能力主義に基づいた序列と階級構造を当然視する限り、「王」はどこにでも存在できる。 「王」たちの専横の裏で自責し、自分を捨てる数多くの被害者を踏みにじりながらだ。

出典：<https://n.news.naver.com/article/036/0000052155>

02 nate ニュース 2025. 8. 18

相撲「シャベル暴行」、バスケットボール「殴り合い」…暴力に傷つく学校体育



シャベルで頭をたたきつけた。 こぶしで相手の顔を殴った。 日常生活でも起こりにくい衝撃的なことが韓国体育、それも学校の体育現場で発生した。 体育界暴力の輪が再び俎上に上がり、社会全体の怒りを呼び起こしている。

最近、学校の体育現場で暴力事件が相次いで発生した。 15 日、慶北警察庁・尚州警察署などによれば警察は児童虐待などの疑惑で慶北尚州のある中学校シルム部コーチ A 氏を捜査中だ。 今年 6 月、コーチの A 氏が練習中に学生選手の頭をスコップで打ち下ろした。

被害生徒は医療用ホッチキスで傷口を縫合しなければならなかった。 被害生徒は衝撃に先月 28 日、極端な選択を試みたが、家族に救助されたという。 さらに衝撃的なのは、2 ヶ月以上この事件が隠蔽された状況まで明らかになった。

今回の事件と関連して大韓シルム協会は「暴力はいかなる理由でも正当化できない」として被害学生の回復を支援し、シルム界の制度と文化を改善すると約束した。 慶北教育庁もまた道内 364 ヶ学校運動部所属学生選手 4000 人余りを対象に 21 日まで進行される全数調査に着手した。

今月 12 日、江原道楊口で行われた韓国中高バスケットボール週末リーグの王中王戦中学校の試合途中、ある選手が相手選手の顔を拳で殴った。 そのシーンは現在編集されている。

12 日には江原道楊口で開かれた韓国中高バスケットボール週末リーグ王中王戦中等部の試合ではリバウンド争いの途中、B 選手が相手選手を拳で殴った。 被害生徒はそのまま倒れ、応急処置後に病院に運ばれた。 目の上を 5 針縫った中、眼窩骨折の診断も受けた。 中古バスケットボール連盟は翌日の 13 日、懲戒委員会の議論を経て B 選手に出場停止 3 年 6 ヶ月、該当中学校のコーチには資格停止 2 年懲戒を下した。 終わりではない。 4 月、大邱ではフィギュアスケートコーチが過去の学生選手を相手にハサミを口の中に入れて「切ってしまう」と脅迫するなど苛酷行為を日常的に行ったという主張が提起され論難が起きた。 だが、大韓氷上連盟は「該当事件を確認中」と明らかにした後、まだ関連事案に対する公式発表がない。 昨年、済州でテコンドーコーチが学生選手たちに競技をさせた後、負けた選手にクラブで何度も暴行を加える事件も発生した。 これに対し、該当コーチは特殊暴行、児童福祉法違反の疑いで済州東部警察署に立件された経緯がある。

出典：<https://news.nate.com/view/20250818n02186>

03 N ニュース 2025. 8. 15

慶尚北道教育庁、学校運動部暴力再発防止「ワンストライクアウト」導入



慶北教育庁(教育監イム・ジョンシク)は最近発生した学校運動部指導者暴力事件を契機に学生選手保護と安全な学校運動部運営のための再発防止総合対策を用意し、道内全学校運動部を対象に緊急全数調査に着手したと 14 日明らかにした。

今回の全数調査は 14 日から 21 日まで行われ、道内 364 ヶ学校運動部所属学生選手 4000 人余りを対象に「(性)暴力および人権侵害実態」をオンライン非公開方式で調査する。調査の結果、被害や侵害事実が確認されれば直ちに保護措置を施行し、持続的暴力や組織的隠蔽が疑われる場合、特別調査を通じて徹底的に究明する方針だ。

また、慶北教育庁は△被害学生心理相談・治療支援△指導者暴力予防教育定例化△訓練前後の人権・安全教育並行△毎月「師弟同行対話の時間」運営などを推進する。

特に社会的物議を起こす重大暴力事案に対しては「ワンストライクアウト(One-Strike Out)」制度を適用し、一度の違反だけでも指導者契約を解約できるよう管理指針を改正する。刑事処分が明白な場合には契約解約を原則とし、教育支援庁単位で学校運動部暴力申告センターを設置し申告受付から事案処理まで迅速対応する計画だ。

イム・ジョンシク慶北教育監は「暴力行為に対しては無寛容原則を適用し、学生選手たちが恐れなく訓練に専念できる安全な環境を作る」と強調した。

出典：<https://n.news.naver.com/article/382/0001216842?lfrom=kakao>

04 N ニュース 2025. 8. 15

龍仁サッカー協会幹部、公務員暴行…市長「断固たる措置を取るべきだ」



イ・サンイル龍仁特例市長は最近、龍仁市サッカー協会所属専務理事が夕食中に市公務員を暴行した事件と関連して 15 日、「暴力行使は容認し難いことで、当事者は適当な責任を負わなければならない、サッカー協会もこの問題をうやむやにではなく、断固たる措置を取らなければならない」と話した。

イ市長は「ある事案について考えが異なり言い争うことはできるが、思い通りにならないと暴力を行使することは常識とスポーツ精神に反する非常に誤った行為」として

「加害当事者と協会が責任ある行動をしなければならず、まともにするかを見守る」と明らかにした。続けて「市はこの間、市民プロサッカー団創立のための準備作業をしながら龍仁市サッカー協会と協力をしてきたが、今回のことで市と協会の信頼が毀損されるか憂慮する」として「協会が責任感のある先制的な措置で信頼を回復する努力を傾けることを願う」と付け加えた。

龍仁市サッカー協会の専務理事の暴行事件は今月初め、サッカー場のレンタル問題と関連し、市の関係者と協会側の関係者が食事をしながら議論している途中に発生した。被害公務員は協会の専務理事を警察に告訴した。

出典：<https://n.news.naver.com/article/081/0003566290?lfrom=kakao>

05 京仁日報 2025. 8. 17

枯渇危機の京畿道文化体育関連基金



京畿道文化芸術・体育支援のための財源が枯渇する危機に直面した。京畿道体育振興基金と京畿文化財団の基本財産などを安定的な収益構造や明確な基準なしに使用すると、数年内に文化芸術家と体育人に対する財政的な支援が縮小される可能性があり、対策作りが必要だという指摘だ。

17日、京畿道などによると、京畿道体育振興基金は、京畿道民の体育活動を活性化するため、1997年に新設した。京畿道体育会は基金利子収入を通じて体育人のための奨学金名目で使ってきた。しかし、最近では体育振興基金を特定種目の独立野球団・京畿道リーグと市民プロサッカー団に対する財政的な後押しで運営し、他の種目から議論を呼んだ。

さらに大きな問題は、京畿道体育振興基金が毎年減っているという点だ。体育振興基金はこの4年間で300億ウォンほど減った。体育振興基金は2021年末327億ウォンから2022年240億ウォン、2023年147億ウォン、2024年74億ウォンと集計され、今年末には約18億ウォンまで減少すると予想される。

これは体育振興基金の自主的な収入源がないというのが主な理由だ。体育振興基金の利子収入も十分ではない。今年、道は体育振興基金として約99億ウォンを支出する計画だが、収入は約46億ウォンに過ぎない。これと関連した批判が絶えず提起されてきたが、対策準備は遅々として進まない状況だ。

京畿文化財団の基本財産と関連した議論も続いている。基本財産は財団の安定的な運営と文化芸術家支援のための資産だ。このような理由で基本財産は特殊な場合に制限的に使われてきた。新型コロナウイルス感染症の時期である2020年、財団が道内の芸術家1千人に各200万ウォンを支援したのが代表的だ。

このような状況で、京畿道が今年初め、財団に基本財産を使用することを提案し、議論が触発された。京畿文化財団は、約1千200億ウォン規模の基本財産に手を付け始めれば、数年内に枯渇する恐れがあるだけに、関係機関間の議論を基に運用計画をはじめとするガイドラインが優先されなければならないという立場だ。一方、京畿道は基本財産の趣旨によって道の要請によって基本財産を活用できると話す。

一連の事態に対してある文化芸術界関係者は「道が必要により財団の基本財産を活用することはできるが、具体的な基準を用意したり関連議論を先行しないまま使用すれば2～3年以内に枯渇する恐れがあり適切でない処置と見られる」とし「基本財産に対する慎重な議論が必要になった時点」と明らかにした。

出典：<https://www.kyeongin.com/article/1749272>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>